

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	長崎大学	整理番号	O05
プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	山下 俊一	プログラム コーディネーター	森田 公一

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムについては、カリキュラムがよく整備され、バランスのよいプログラムとなっている。また、学生が切磋琢磨し合う取組も実施され、学生の在籍する研究科との連携も概ね良好と判断される。以上より、本プログラムについては十分に評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、外部機関の参画も積極的になされており、海外研修では高い評価を得た事例が複数あるものの、目指すグローバルリーダー像やそれに向けてのキャリアパスを学生が十分に描けていない例が散見される。各種のシステムは構築されているが、その実効性を高めるフォローアップ体制などに、一層の努力・工夫が必要と思われる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備について、指導体制の構築や改革意識の共有、国際ネットワークの形成は概ね達成されている。また、グローバルな環境も十分に整備されている。以上より、本項目に関しては評価できる。

優秀な学生の獲得については様々な工夫を行っており、その結果、選抜における合格者は毎年度定員を充足している。また、学生には十分な経済的支援も行っており、本項目に関しては十分に評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学位審査は外部審査委員を含む公開審査とする仕組みを構築しており、QEでは専門分野の理解度に加え、課題解決能力などの多様な能力を英語で審査していることから、質は十分に保証されていると考えられる。

事業の定着・発展については、学長を中心とした責任あるマネジメント体制が機能している。外部評価体制、自己評価体制も整備され、複数のレベルでプログラムへのフィードバックが行われる仕組みとなっている。支援期間終了後に向けて、長崎大学グローバルヘルス基金を平成27年度に設立し、同年度10月には、熱帯医学・グローバルヘルス研究科（修士課程）を開講した。今後はこの研究科と有機的に連携し、修士と博士の両課程で一貫した大学院教育プログラムを構築する予定である。以上より、本項目に関しては十分評価できる。